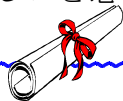




年中だより 校訓「愛知・自治・敢為」 89名のみならず保護者の皆様へ

学校の風と書く「校風」というものがあります。これはその学校の歴史や伝統からつくられるものです。本校・市宇ヶ丘学園の校風はどんなものでしょうか。私はとてもさわやかな風を感じます。では、その校風は誰がつくってきたのでしょうか。それは生徒のみなさんです。保護者や地域の方々の思いを受け、3年生や生徒会役員を中心にして、全校生徒と教職員でとてもさわやかに温かな校風をつくり出していると思います。そしてその雰囲気、そのまま市宇ヶ丘学園全体の雰囲気につながっているように思います。2月に生徒のみなさんに人権アンケートをしました。その結果では、学校に来るのが楽しいという設問に、肯定率が83.2%、学校で友達に会うのが楽しいという設問に94.3%、また、自分のことを大切にしているという設問に85.7%、自分と同じように相手のことを大切にしているという設問に対して94.3%であり、肯定的な評価が高く、全体的にみなさんが安心安全で、良い校風の中で充実した学校生活をおくれている様子がうかがえました。学校の歴史や伝統の主役は生徒のみなさんです。3年生はまもなく卒業します。先輩のつくった歴史・伝統・校風を今の2年生・1年生が引き継ぎ守り続けて欲しいと思います。

3月6日の朝会の話



今年3月5日が二十四節気の「啓蟄」でした。「蟄虫啓戸」と書いて、「すごもりむしとをひらく」と読みます。土の中で冬眠していた昆虫たちが、戸(穴)を啓(ひら)いて出てくるという意味です。この日を境に本格的な春が近づいてきます。啓蟄をむかえると、山々や野原は、沈丁花や木蓮、辛夷(こぶし)、スマレやれんげの花が咲き出します。戸を啓(ひら)いて出てきた虫たちとの合従連衡が始まります。そうして、春の気配が一気に高まるのです。

遠山啓(とおやまひらく)という数学者(1979年没)がいました。この人は水道方式という、だれにも分かる数学を提唱した人として一時代をつくった人ですが、啓(ひらく)という名前で、むずかしい数学の戸を啓(ひら)いた人だったのです。「啓」という字には「闇が明るくなって夜が明ける。陽の気がひらいていく。新しい門を開く」という意味があります。3年生は入試、1・2年生は学年末テストという関門を突破して、新たに3年生は高校生活を、1・2年生は進級し、最高学年・中堅学年となり、新しい世界を切り拓きましょう。

自転車冒険家 西川昌徳さん 3年生にエールを送る。

2月28日(火)

「ぶつかれ もがき 生まれるもの」と題して自転車冒険家西川昌徳さんより、新たなスタートラインへのエールをいただきました。6月に続き2回目の出前授業でした。終始和やかな雰囲気の中で、アメリカ入国からメキシコでの非常に厳しく、怖い旅行体験を話してくれました。その中で、自分を救ってくれたのは人とのつながり・温かさについて語ってくれました。熱い話の中で、子ども達に「今自分に何ができるか。」について考える機会を与えてくれました。



歴史学者磯田道史さん防災講演会 「むかしに学ぶ 牟岐の津波」

3月3日(金)

映画「武士の家計簿」「殿、利息でござる！」の原作者で“平成の司馬 遼太郎”の異名をとる超人氣歴史学者磯田道史先生が来校し、小学校5・6年生中学校1・2年生に、津波の怖さについてお話くださいました。磯田先生の祖母・母が牟岐出身で、昭和南海地震の時牟岐で津波の被害に遭い、海蔵寺へ避難し助かった経験から、牟岐の子ども達に「ゆれていても逃げる」「思っている津波よりも2倍以上の津波が来る」等の津波から身を守るために覚えておいてほしい事を伝えてくれました。



お知らせ

最近の生徒数の減少により、多くの部活動(今年秋以降 野球・バレー・バスケ女子)が合同チームで試合出場をしております。これからの生徒数と部活の維持等について職員会で検討を重ね、次のように苦渋の決断をいたしました。保護者の皆様にはご理解・ご協力よろしく申し上げます。

バレー部・・・平成30年度より募集停止
剣道部(男女)・・・平成31年度より募集停止